6 引用・参考文献リストを「作ろう」

レポートや卒論を書くときは、先行研究を調べて、同じテーマで書かれた図書や雑誌論文を読むことは必須です。他人が書いた情報を引用した、または参考にした場合には、どの情報から引用したか、どの情報を参考にしたかを示す必要があります。

引用・参考文献は、基本的に巻末（レポート・卒論の最後）にまとめてリスト化します。参考にした情報の種類によって、例えば以下の例のように、一定の決まりに従って書きます。

書籍（一般的な本）

①著者名．②書名．③版表示※，④出版地※，⑤出版社，⑥出版年，⑦総ページ数※．⑧引用したときはそのページ

①西田みどり．②「型」で書く文章論：誰でも書けるレポート講座．⑤知玄舎，⑥2012，⑧p.42
※③版表示は、「初版」の場合は省略可能。④出版地、⑦総ページ数は省略されることもある。

雑誌に載っている論文

①著者名．②論文名．③雑誌名．④出版年，⑤巻数，⑥号数，⑦はじめのページ – おわりのページ．⑧引用したときはそのページ

①松田洋介．②教育格差の批判はいかにして可能か．③人間と教育．④2013，⑤vol.79，⑦p.96-103．⑧p.98
※ 雑誌は、⑤巻数、⑥号数のどちらか一方しかない場合がある。号は no.** で表す。

新聞記事

①著者名（わかる場合）．②記事名．③新聞紙名．④発行日，⑤刊や版，⑥引用した紙面のページ・面（データベースを利用した場合はデータベース名）

②広がる教育格差：就業援助縮小自治体の差鮮明．③朝日新聞．④2014 年 4 月 4 日，⑤朝刊，⑥p.30（聞蔵 II ビジュアル）

ウェブサイト（ホームページ）

①著者名．②" ウェブページのタイトル "．③ウェブサイトの名称．④入手 URL，⑤（入手日付）．

①文部科学省．②" 学校基本調査 年次統計 表題［総括表］進学率（1948 年～）"．③政府統計の総合窓口．
④http://www.e-stat.go.jp/SG1/toukeidb/GH07010201Forward.do，⑤（参照 2012-04-24）．

4 年生になり、卒論を書く頃になると、所属の学科から「卒業論文の書き方」が配布されることがあります。そこに、引用・参考文献リストの作成方法が載っている場合は、その方法に従ってください。とくに指定がなく、書き方に迷った場合は指導教授の先生が書いた論文を見てみるのもオススメです。

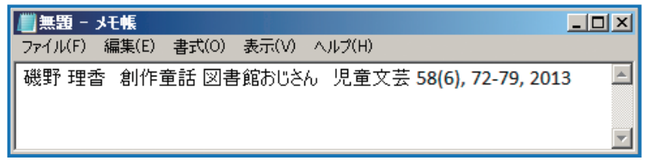
引用した、または参考にした情報は、その時点で右ページの方法で予めリスト化しておくと、最後の段階で慌てることはありません。はじめは難しいかもしれませんが、せっかく書いた論文が盗作と言われないよう、きちんと管理しましょう。

コピペを使って、リストを簡単に作る方法

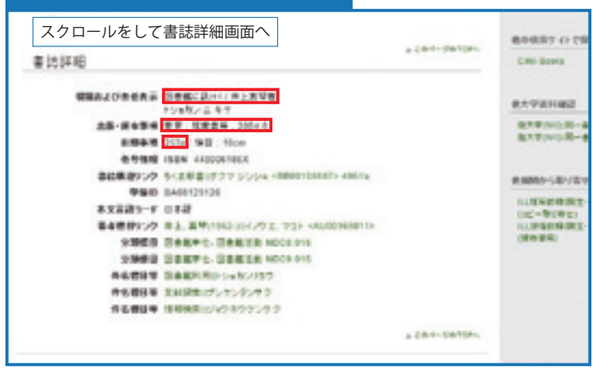
本のタイトルが何か、著者は誰か、出版社は、出版年は、版表示 ... などを、いちいち本から探すのは手間ですね。
一文字ずつ入力すると間違いやすいので、GLIM/OPAC や、CiNii Articles 等の検索結果からコピー＆ペーストをするのがオススメです。

例 1）CiNii Articles の検索結果より

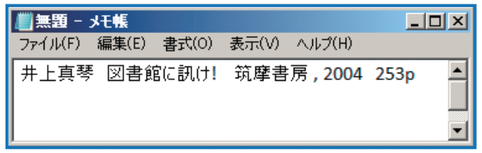
① Windows の「メモ帳」を起動
② [redacted] をコピー
③ メモ帳にペーストし、区切り文字（カンマやピリオド）を入力してからレポート・卒論の本文にコピー＆ペースト



例 2）GLIM/OPAC の検索結果より



例 1 と同様、[redacted] をコピーして、メモ帳にペーストし、区切り文字を入力してからレポート・卒論の本文にコピー＆ペースト



マメ知識

GLIM/OPAC や CiNii Articles からコピーした箇所を直接レポート・卒論等の本文にペーストすると、レイアウトが崩れることがあります。一度、レイアウトが一定になるメモ帳等の別のファイルを経由させてから、コピー＆ペーストしてみましょう。